

とっとうと通信

2019年12月19日発行

201号

「とっとうと通信」は
略して「とっとう」
いつも読んでいただき
ありがとうございます。

こんにちは！平川です。前号のとうとうを読まれた方から、「中国三泊四日の旅行が五万円で行けるのか？」と質問がありました。まず飛行機代ですが、香港エクスプレスで香港までの往復が二万円。中国へは香港から入国しました。ホテルは一部屋で一泊六千円。三泊で一万八千円です。そして食事（ビール込）とバス・地下鉄その他で一万二千円。以上で五万円です。しかもホテルは福岡で言えば、西鉄グランドホテルクラス。もし一人で相部屋だったら約四万円で済んでいました。こんな旅も男二人だから出来るのでしょうか。
では今月もはりきっていきましょう。

深セン、広州への珍道中

前号の続きです。毎度の食事はレストランではなく、地元の食をいただきました。想像していた以上に、とても美味しかったです。これは広州で食べない魚皮です。コリコリ

フヨフヨの魚の皮

(川魚かな?)に、

ピーナツ、青唐辛子



パクチー、ゴマ油等を混ぜ合わせたマリネのようなものです。これを路地に置かれたテーブルでいただきます。下町のグルメって感じです。このメニューは、おかゆと猪腸粉（コメを原料に作る広東料理）の三品だけでしたので、魚の身はどうしているのかと気になりました。カラーゲンタツ（ぶり）で女性に人気でした。



次は鶏肉を細かくきざんで、唐辛子で炒めたものです。ビールに合います。あっ、そうそう。中国は外食事にビールを飲む習慣は無いようで、ほとんど見かけませんでした。ですから、ビールを置いていないお店も多かった。で、この鶏肉ですが、とにかく小骨が多い。小骨を入れるための小皿をお願いしたところ、「小骨はテーブルの上に置きなさい」とのこと。ゴミ（小骨）のために、なぜ皿を汚さないといけないのか、洗う水がもったいない。という発想でしょうか。（私の想像です）またこれは別のお店です。ご飯とおかず

を三品注文したのですが、全部一つの皿の上です。仕切りは無いので、味は混じり合っています。これもまたお皿を汚したくない。という事でしょうか。食べ過ぎてしまえば同じですけどね。（笑）しかし味は絶品でした。その国の文化を知るには食事が一番です。ここから話は変わります。ご存じの通り中国は監視社会です。街を歩くとあらゆる所に監視カメラがあります。また地下鉄に乗るだけでも、毎回、手荷物検査のようなX線を通して、セキュリティチェックを受けます。個人情報や荷物が盗取られる、馬が中国の中のような不自由なイメージが中国にはありましたが、実は数日滞在して少々変わりました。と言うのも、生活している人がいきいきとした表情で楽しそうなのです。夜になると、あちこちで高齢の方がグループを作り、大音量の音楽に合わせて踊っています。そうかと思えばデパートの前でカラオケを楽しんでいる人たちもいます。生バンドの演奏もやっています。毎晩お祭りです。またどちらの国も一本外れた裏路地を歩くと



危険な雰囲気を感じるのが普通です。深センは大会でありながら、まったく感じませんでした。若い女性も平気で歩いています。これは監視カメラや顔認識ソフトのおかげで、犯罪がかなり減ったらしいです。一日も経たずに捕まるでしょうね。日本よりよっぽど安全です。私は監視されている事に、不思議な居心地の良さを感じたのです。いったい自由って何だろうか。と思いました。もちろんプライバシーも大切ですが、市民の安全を考えると、地域の温かな見守り役として必要なものかもしれません。追伸、令和元年九月に小倉美咲さん（7歳）が山梨県のキャンプ場で行方不明になりました。私は経営の勉強を倫理法人会でしていますが、小倉美咲さんは千葉県倫理法人会に所属する会員企業の幹部社員のお嬢さんです。ご両親のことを考えると、いたたまれない気持ちになります。

もうすぐクリスマスです。一日も早く見つける事を切に願っています。

発行／有限会社アサム

〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36

Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002

・専門学校&スクールサーチ: <http://www.asamnet.jp/>

・ブログ: <https://itorinri.com/>